

民児協 あこう

支えあう 住みよい社会 地域から

第 59 号 令和 3 年 秋号



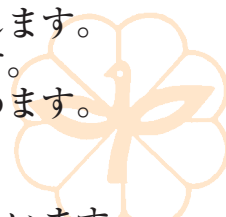
有年小学校 5 年生の稲刈体験



民生委員児童委員行動宣言

1. 安心して住み続けることができる地域社会づくりに貢献します。
2. 地域社会での孤立・孤独をなくす運動を提案し行動します。
3. 児童虐待や犯罪被害などから子どもを守る取り組みを進めます。
4. 多くの福祉課題を抱える生活困難家庭に粘り強く接し、地域社会とのつなぎ役を務めます。
5. 日頃の生活を活かし、災害時に要援護者の安否確認を行ないます。

全国民生委員児童委員連合会





民生委員児童委員



各地区活動報告

赤穂地区「あいさつでつながる地域の輪」

赤穂地区民生児童委員会は、赤穂中学校のあいさつ運動に参加しています。赤穂中の坂道に立ち、登校の様子を見守りながら声掛けをしています。コロナ禍で、行事の中止や延期、縮小や自粛が続く中であいさつ運動でしたが、マスク越しに元気のいい声と共に笑顔が返ってきていました。

挨拶は、人と人をつなぐコミュニケーションや交流の第一歩です。挨拶を通じて、地域の輪が広がればと願います。



御崎地区「給食サービス」

他人との交流が少ない75歳以上の一人暮らし老人及び80歳以上の高齢者世帯の希望者に対して、毎月1回第一水曜日に手作り弁当を1食300円で提供しています。今は新型コロナウイルスの影響で公民館での調理ができない為、業者に依頼した弁当をお届けしています。

給食サービスがきっかけとなり、友愛の輪が広がる事を願っています。ご利用を希望される方は地区の民生児童委員・地域福祉推進委員まで申し込んで下さい。



城西地区「コロナに負けずお元気で!!」

城西地区は6月22日に友愛給食の配布、8月初旬に安否確認の友愛訪問をしました。コロナワクチンの接種は始まっていましたが、収束の気配が見えない状況だったため、弁当は手作りをやめ赤飯を発注しました。自粛生活が続く中、会って短時間でも話をする事の大切さを改めて感じました。新型コロナウイルス感染症の一日も早い収束を願わずにはいられません。



坂越地区「友愛訪問を終えて」

8月5日(木)友愛訪問を実施しました。35度を超える暑い日でしたが、皆さんとても爽やかな笑顔で迎えて下さいました。外出自粛が続く、おしゃべりの機会が少なくなった事もあり、いづいなく会話ははずみ、なんとなくほっこり和やかな気持ちになりました。又、ワクチン接種も順調に進んでいるようで、安心しました。この先コロナの収束を祈りつつ、穏やかな日々であります様に!!

塩屋地区「友愛訪問を終えて」

東京五輪での選手達の活躍のニュースに胸躍らせる8月7日(土)は友愛訪問。

暦の上では「立秋」というのに厳しい暑さ。ほんの少しの『涼』を届けようと素麺と素麺つゆを持って訪問しました。

新型コロナウイルス感染拡大で巣ごもりが続いている中、顔を合わせると、待っていましたというように会話が弾みました。皆さんのお元気なお顔に触れ、一安心。人と人とのつながりの大切さを実感した訪問でした。



高雄地区「コロナ禍の中で」

コロナ禍の中、民生児童委員の活動が度重なる緊急事態宣言発出で、次々と計画の変更を余儀なくされる中、地域の見守り隊として、感染状況をみながら活動を再開しました。

安否確認・給食サービス・友愛訪問・等様々な支援を一致団結して、きめ細やかに行っています。

本年も昨年同様 私たちは、『たすけあう』『かかわりあう』『おもいあう』『た・か・お』の精神で今日も頑張っています。



西部地区「西部地区友愛訪問」

西部地区では、毎年、6月と7月に友愛訪問活動を行っております。一人暮らし老人・高齢者世帯に対し、安否確認・健康状況・生活状況の異変の有無などの状況把握と、個々の生活の維持・向上のお役立ち活動として、記念粗品(そうめんセット)をお届けしました。

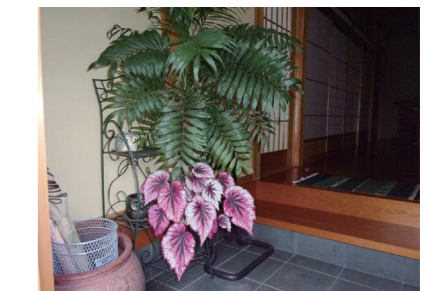
今回は、新型コロナウイルスの影響により不安な生活が続く中なので、ワクチンの接種状況・予約状況の確認と感染防止啓発のための「感染防止注意喚起チラシ」を作成し、注意呼びかけを行いました。



有年地区「友愛訪問」

友愛訪問を行いました。訪問先のご夫婦宅玄関には見た事の無い赤い花が鉢植えされていました。あいにく奥様は不在で、ご主人に訪問の主旨をお伝えし、おみやげの品をお渡ししました。

そして、鉢植えされている花について「随分前に知り合いにいただき、最近やっと花を付ける様になった」と聞きました。これからもお元気で珍しい赤い花を咲かせ続けて下さい。(下の写真です)



尾崎地区「防災～コロナ禍であっても動く南海トラフ～」

忘れていませんか?南海トラフはコロナ禍であっても動いています。今年ハザードマップが更新されました、地震時の震度が6弱から6強と強くなっています。

震度6強は立って歩くことはできない、また、何も対策を取っていないタンスは転倒し、上にある物は落下します。

今後30年以内に70～80%の確率で発災すると言われていたが、最近では2030年代に南海トラフによる巨大地震が起きると言われています、早く対策を実施して減災に努めましょう。



広報部会

- 新型コロナウイルス第5波の大きな感染状況が続いています。民児協でも本年度予定の各部会による市外研修が中止となりました。マスク着用、手指の消毒にとどまらず、三密、不要不急の外も避け、ひたすら家に籠る生活が続いています。
- 一日も早く元の生活に戻れるよう願っています。



児童福祉部会

昨年より続く新型コロナウイルス感染症により、今年度も部会活動は停滞が続いています。

新型コロナに関してはワクチン接種が進んでいますが、12歳未満の児童は接種は行われておらず、かつ学校や家庭での行動が制限されています。人は他者との関わりの中で人間性が育つものですが、その最も大事な成長期に行動を制限され、児童の心の健康に不安が残ります。

近時、ヤングケアラーが注目されていますが、児童は大変になればなるほど声を発しないそうです。このコロナ禍での児童の隠れたストレスを考える時、身近な大人の児童への関心は肝要であり、私たちも意識をもって各関係機関等との連携を図り、小さな「気づき」を心がけ児童の見守りに努めていきたいと思えます。

障がい者福祉部会

今年の8月中旬、県内に於ける新型コロナ第5波の新規感染者数が1千人に達し、変異ウイルスの猛威に震撼を覚えました。感染は若年層を中心に広がり医療崩壊、自宅療養者の増加等が懸念されます。

コロナ禍で社会が分断される中、障がい者スポーツの祭典第16回夏季パラリンピック東京大会が開催され、様々な障がいを抱えた世界163ヶ国の選手が力と技を競い合いました。障がいを努力と工夫で乗り越え世界に元気と勇気を発信しました。また、多くの選手は様々な人達のサポートを受けながら競技に挑んでいます。サポーターの方、ガイドの方、大会ボランティアの方の献身的な寄り添いの姿勢に感動しました。

国際パラリンピック委員会は、世界人口の15%に当たる12億人の障がい者が差別されることなく、共生できる社会の実現を呼びかけています。

高齢者福祉部会

先日地区の米寿を迎えた方がおっしゃいました。「88歳になったことだし何か新しいこと始めなきゃ」と。また、97歳の方が「人生まだまだこれから。今が青春！」とも。

高齢者の方のパワーに脱帽です。今年、全国で100歳以上の方が8万6千人を超え、まさに“人生100年時代”を実感いたしました。

一方、高齢者を取り巻く環境も、進むデジタル化・ネット社会等、より複雑化してきています。長引くコロナ禍により、先の見えない漠然とした不安を抱えている方も多数おられることと察します。

人と人との交流の希薄化が心配される中ですが、前向きな姿勢を忘れずにお互い支え合い、助け合う地域社会でありたいと願って、今後も諸問題に対応すべく研修を重ねていきたいと思えます。



『ご飯何?』

「母が作るドライカレーです」
 やっと慣れた職場で好きなご飯を聞かれた息子。やめてえマザコンみたいやん。どんなのか食べてみたい? それ小学生と作る簡単なやつ。帰省した息子達に好きなご飯を作り尽くした。手抜きもたくさんした。でも誰かと食べるご飯は美味しいんよ。私の子育てぶりを聞くと理不尽に怒られた話が溢れてきたのでデザート追加。

一人暮らしに戻った夜「お弁当美味しかった」たった一言のLINEにこっそりニヤニヤ。
 また待ってるよ。「今日のご飯なに?」

編集後記

今年の夏は、今までにないコロナ禍での東京オリンピック・パラリンピック開催がありました。静かに応援し、ワクチン接種も進み、「さあ、活動しよう」と思った矢先にまた緊急事態宣言。

今回も取り組みにくい中であっても、各地区、部会の皆様の工夫による活動の様子をご紹介致しました。